

沖縄県 西表島

台湾人炭坑夫たちの隠された歴史を証言する

ドキュメンタリー映画

監督 黄インイク

# 緑の牢獄

## GREEN JAIL



後援

石垣市 竹富町教育委員会

台北駐日経済文化代表處那覇分處

台湾文化センター 沖縄タイムス社 琉球新報社

琉球華僑協会 那覇日台親善協会 (順不同、敬称略)

2020年秋 日本 & 台湾 劇場公開予定

最後の

# 映画製作協賛のお願いです!



大正期の西表炭坑と坑夫たち。(写真:三木健「聞書西表炭坑」1982三一書房より)

沖縄県「西表島(いりおもてじま)」は緑のジャングルに覆われた自然豊かな美しい島です。しかし、かつてこの島には国内外から多くの人が働いた炭鉱があったことはあまり知られていません。明治時代から採炭がはじまり、昭和12年(1937年)の最盛期には1400人の労働者が島に集まったとされていますが、現在は炭鉱の遺構が密林に飲まれて、その記憶と共に風化を待っただけです。

私たちが取材を開始した2014年。当時の炭鉱の様子を知る人は既に限られた状況でした。そんな中、ひとりのおばあとお会いします。炭鉱の仕事をしていた父に連れられ、11歳の時に台湾から西表に渡り、そこから80年以上、彼女の人生はこの島と炭鉱の記憶とともに歩むこととなります。私たちが彼女と話している最中、時々彼女の雰囲気が変わり、その口調に張り詰めたものを感じる時があります。それはあまり表沙汰に語りたくないであろう炭鉱への想いが露出する時でした。彼女は西表炭鉱で働いていた台湾人関係者のうち、島に残る最後の生き証人でした。

最後の証人である彼女の記憶や想いを未来へ託したい。

取材や調査を重ねるうちに、私たちは西表炭坑を描くにはドキュメンタリー映像だけでは足りないと感じました。本作では当時の情景をおばあさんの証言や記憶に基づき、九州と台湾の炭鉱研究者のアドバイスによって細部を補完し、炭鉱が生み出した悲しき歴史を劇映像によって表現します。その為、製作に2500万円の製作予算を組んでいます。台湾、日本、フランスでの共同製作を組み、製作費を捻出するため、国際 pitching大会(企画をプレゼンし国際的なテレビ局、製作会社などが集まり共同制作や出資を募る場)での提案や、クラウドファンディングでの資金調達をスタートさせるなど、尽力しておりますが、未だ十分とは言えない状況です。

現在、資金調達が難航しています。

総製作費2500万円のうち、残り500万円がどうしても必要です。

皆様の温かいご支援  
お待ちしております!

## 忘れ去られつつある西表炭鉱の歴史と記憶。

個人協賛金：1口10,000円～

協賛特典	1口	3口	5口
	エンドクレジットにお名前掲載	エンドクレジットにお名前掲載	エンドクレジットにお名前掲載
		監督サイン入り限定脚本	監督サイン入り限定脚本
		完成披露試写会ご招待券 (2020年10月予定)	完成披露試写会ご招待券 (2020年10月予定)
		会場：東京・沖縄	会場：東京・沖縄

※企業・団体様へは、20万円からのスポンサーシップをご提案させていただきます。事務局までお気軽にお問合せ下さい。

『緑の牢獄』製作委員会 事務局

沖縄県那覇市具志3-12-17-503 (株式会社ムーリンプロダクション内)

E-mail: release@moolinfilms.com 担当: 中谷、菅谷

Tel: 098-996-2898 FAX: 098-995-9290

## 西表島・西表炭鉱について

沖縄本島の南・八重山諸島に位置する西表島はほとんどが山林に覆われているがその奥地西部地域には石炭を埋蔵した地層がある。この炭鉱の採掘は明治期以降に始められ第二次大戦後の一時期まで続いた。西表炭鉱はその過酷な労働と劣悪な環境から圧制炭鉱として恐れられた。坑夫の多くは九州の炭鉱地帯や沖縄本島、台湾、朝鮮などの島外からやって来た。炭鉱でありながらマラリアの蔓延する有病地でもあり、劣悪な労働環境で昼夜を分かたず働き続けた結果、命を落とす坑夫も多かった。



そして逃亡を企てる坑夫は跡を絶たなかったという。

重要な歴史をもつ西表炭鉱と当時を生きた人々の記憶がまさに失われようとしています。炭鉱跡地も長年の放置によって廃墟と化し、このタイミングを逃しては沖縄、そして日本の近代化に関する歴史的証言が空白になってしまいます。炭鉱関係者へのインタビューを重ね、また九州や台湾の炭鉱研究者の方々と協力しながら文献・実地調査をすすめ、ドキュメンタリー映画という方法でこの歴史を残していきます。

### 監督の言葉

2014年、私はこの映画の主人公と森の奥に佇む平屋の家の中で出会いました。一見すると時代に取り残されたような平屋の家にはたくさんの記憶が溢れていました。私と彼女に共通する言葉：台湾語で話をするうちに、彼女の隠された記憶を呼び覚ました。

停滞した時間がこの静かな熱帯の島に流れています。撮影を重ねる中で私はこの歴史は決して忘れてはならないものだと思ってきました。

この企画は私にとって何よりも世に出したい映画です。撮影を開始して5年が経った今、より素晴らしい形で映画として残したいです。こうした形で皆さまにお願いするのは大変恐縮ですが、皆さまのご協力ご支援をお願い申し上げます。



監督・プロデューサー  
**黄インイク**  
(黄胤毓 / Huang Yin-yu / コウ・インイク)

台湾・台東市生まれ。台湾政治大学テレビ放送学科卒業、東京造形大学大学院映画専攻修士を取得。現在沖縄県在住。2014年から八重山の台湾移民をテーマとした映画企画《狂山之海》を撮り始める。2016年、石垣島の台湾移民家族を描いたドキュメンタリー映画『海の彼方』が台湾で劇場公開し、台北映画祭や大阪アジア映画祭、ハワイ国際映画祭などへ選出される。2017年には日本で一般劇場公開も果たした。

### 製作・公開スケジュール

2014年 1月～ 2018年 12月	ドキュメンタリーパートの撮影〔完了〕
2019年 11月 12月～	再現パートの撮影（沖縄・台湾） 編集・仕上げ作業
2020年 8月～	各映画祭での発表（世界初上映） ※ベネチア国際映画祭でのプレミア上映を目標にする
10月	完成披露試写会 in 東京・沖縄（支援者様ご招待）
11月	日本国内各地での一般上映開始
12月	台湾各地での一般上映開始
2021年 10月	ソフト化・デジタル配信

### 応援コメント

台湾からの解明に期待 三木健（西表炭坑研究者）

西表炭坑は日本の最南端の炭鉱だ。それはもっとも台湾に近い炭鉱を意味している。台湾北部の炭鉱地帯からは、台湾人坑夫たちが海を渡り、採炭に従事したが、その労働は過酷を極めた。坑夫たちは「モフィー」（麻薬）でしばりつけられ「緑の牢獄」から抜け出すことはできなかった。黄インイク監督は、こうした闇に光を当て「緑の牢獄」の一端を垣間見せてくれよう。地下鉱脈の繋がった台湾からの解明に期待したい。

監督・共同プロデューサー：黄インイク 共同プロデューサー：山上徹二郎 ラインプロデューサー：菅谷聡 撮影・制作：中谷駿吾 美術・装飾：谷中太楼 音楽：Thomas Foguegne  
歴史顧問：三木健 歴史資料提供：三木健、井上修（NDU）美術再現協力：石垣金星 西表島コーディネーター：池田克史 ロケ地ご協賛：石垣やいま村  
製作：株式会社ムーリンプロダクション、木林電影有限公司（台湾） 共同製作：株式会社シグロ、24 images（フランス）、mediart01 films（オーストリア） 国際リリース：Deckert Distribution（ドイツ）

### 協賛金お申込書

申込締切：2019年10月31日（木）

『緑の牢獄』製作委員会 事務局 E-mail: release@moolinfilms.com Tel: 098-996-2898 FAX: 098-995-9290 担当：中谷、菅谷

フリガナ		ご記入の上、本用紙をFAXでお送りください。※ご入金の際は事務局までご一報いただけますと幸いです。	電話番号 ( )
お名前			
ご住所			E-mail
協賛金額		協賛金のお振込み先 ●ゆうちょ銀行【記号】17060【番号】18485651 【口座名】緑の牢獄 製作委員会（ミドリノロウゴク セイサクイインカイ） ※郵便局以外の金融機関からお振込みをされる場合の口座情報は下記となります。 【銀行名】ゆうちょ銀行【店名】七〇八（読み ナナゼロハチ）【店番】708 【預金種目】普通預金【口座番号】1848565【カナ氏名】ミドリノウゴクセイヤクイカイ	
1 口 10,000 円 × 口 = 円			